

事業所名	おおさ苑グループホーム (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成18年11月16日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 看護師 資格・経験 看護師、介護支援専門員 B:現職 生活指導員 資格・経験 身体障害者職業生活指導員、社会福祉主事、N-A&M-B-2級、介護支援専門員
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<p>「人間愛と専任の精神で一人ひとりが生き生きと」を基本理念として掲げ、入居者の人権、人格、プライバシーを尊重し、地域社会との繋がりを持ちながら、安全性、自主性を重視した温かいケアに努めることなどを重点目標として支援されている。</p> <p>地域との交流については、地域交流ホームを併設し、ボランティアによるマジックショーを見たり、敬老会を共に楽しんだりしている。ゲートボール場の見学や遊歩道で地域の方との気軽な会話も出来るなど、デイサービスの方や地域の方との触れ合いを深め、入居者の社会参加と自立を目指し、ノーマライゼーションの実現が図られていた。</p> <p>人格の尊厳とそのらしさを支える中核となるものは、「人間愛と専任の精神」であり、一人ひとりの生きてきた過程、生活体験を大切に、ニーズに応じたケアを目指して、認知症であっても生き生きと暮らして行けるよう入居者のありのままを大切に支援がなされていることが、入居者との心と触れ合いの様子や記録から感じ取れた。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりと取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>天窓からは明るい陽光が降り注ぎ、キッチンがアイランド方式で調理しながら語り合え、団欒の場所にもなっている。また、随所にあるスペースには自由にくつろげるソファや椅子が設置してある。畳のコーナーもあり、按摩器も置かれ生活空間としての安らぎのスペースが大いに感じられる。皆で歌を歌ったりされていたが、傍で歌を聞きながら人形に見入っているのんびりと過ごされる方もおられた。居室にはトイレが設置されており、プライバシーが保たれている。</p> <p>畑作りが楽しめる場所があり、四季折々の野菜や花作りが楽しめ、ほうれん草、春菊などが植えられていた。</p> <p>併設の特養・デイサービスと一緒に音楽療法・フットケア等に参加し、デイサービスの方とも交流してメリハリのある楽しい暮らしを送ることができるよう配慮している。バーベキューなどの野外行事もしやすい環境があり、入居者とその家族及び職員が共に幸せな気分を感じられる場作りに努力されていることがうかがえた。</p> <p>入居者が不安や帰宅願望を示した時は、職員は入居者の話を耳を傾け、時にはお嬢さん役を演じて声をかける等、入居者個々の気持ちの安定が保たれるよう、その方に寄り添った介護支援ができていた。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
<p>中国山地の静かな高地に在り、谷間を見下ろすと、紅、黄、緑に彩られた山々の谷間に民家や施設の屋根の色が美しく映えて見える。母体法人は県下でも早くから福祉施設経営に取り組み、障害者療養・高齢者介護には長い経験に基づき蓄積されたノウハウを持ち、人的資源も多い。それらをホーム運営に生かし、合理的かつ人間愛中心のケアを行っている。</p> <p>地元の在宅福祉の中心として、特養、デイサービス、訪問介護、居宅介護などの一環としてグループホームも2つあり、地域に大きく貢献し、地元の情報も厚い。又、地域交流ホームを併設し、地域との協働性は認知症の方の社会参加を促し、ホームの活性化に繋がっている。</p> <p>認知症ケアについては、職員全員事例をもとに常に研究し、切磋琢磨してサービスの質向上に取り組み、課題を定めて研究発表もしている。運営理念にある、生き生きとした人間愛あふれるケアサービスを目指して努力されていることが各種会議録やマニュアルが整備されていることからもうかがえる。</p> <p>長年の経験より、その管理運営にはコンピューターを導入して入居者の個々に変化する情報を共有できる。セキュリティー対策も取れ、合理的・的確な運営管理がなされ、その分ゆとりのある介護がなされている。</p>
特に改善の余地があると思われる点(記述)
<p>昨年指摘された改善点を見て、即改善する姿勢が見られた。次々とハードルを高くしてチャレンジされる様子から、地域福祉の中心として益々発展されることを期待する。</p>

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせて入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>入居時の面談で本人の経験・趣味・要望等を詳細に聞き取り、入居者の人生経験・職業・能力そして価値観などをよく把握し、本人の特性や興味を活かせる生活リズムや運動、趣味などを取り入れた計画を立て実施している。このことは、毎月の介護経過の評価からも明らかであった。</p> <p>個人の自主性を尊重し、能力、意思を大切にしている。洗濯物等は見えるところにさりげなく置き、指示されることなく、自由に自発的に作業を出来るようにしてあり、無理なところが見受けられない。生活の場面でも「しましょう」ではなく「出来ますか」と入居者の自己決定を確認しながら入居者が達成感を抱けるように支援していることがうかがえた。ご飯をよそう、洗濯物をたたむ、畑の手入れをするなどされていた。</p> <p>個人に関する書類は、鍵を掛けて保存している。パソコン入力による書類の作成であるが、閲覧にはアクセス権を決めて、所定の部署しか見られないようにセキュリティー対策が講じられ、プライバシー保護に留意していた。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<p>管理者は、職員1人につき、年1回は外部研修などに参加できるように勤務体制を配慮されている。研修者は月1回の職員会議で伝達報告し、ホームとしての姿勢を語り合い、サービスの質の向上に向けて研鑽している。</p> <p>職員が入居者体験をして報告し、職員個々の気づきを深めることもされており、職員一人ひとりが、介護の知識、技術の向上のための意欲を持っていることがうかがえた。</p> <p>事故及びヒヤリハット報告書が書かれており、原因を追求し、対策を立て全職員に回覧することにより周知徹底を確実にし、今後「繰り返さない」という姿勢で業務に臨み、事故発生防止に繋げている。</p> <p>転倒・火傷・誤嚥・行方不明発生時等緊急時対応などの「マニュアル」が整備され、ノロウイルスなどの感染予防対策もマニュアルに沿って日頃から確実に実行し、大事に至ることを防止している。</p> <p>防災訓練も法人全体で協力しており、入居者も参加した避難訓練を年2回実施している。夜間の防災訓練では、特養、障害者施設の職員や地域の方も通報で夜間用の蛍光ベルト、防災着を着用して集合する体制が取れている。地域防災訓練の研修も受けており、地域の方との協力体制がここでも発揮されていた。</p> <p>家族会もあり、行事には家族も参加され入居者と共に楽しむ支援がなされている。</p>		